



特集
JAあさひかわ
クッキングフェスタ

明日を担う
新米・新そば試食会
トピックス
理事会だより

<http://www.ja-asahikawa.or.jp>

事故を起こしたときの万全な保障に
JAの対物超過修理費用保障特約

○対物超過修理費用保障特約とは？

対物事故による相手の自動車の修理費用がその車の時価額を超える場合に、修理費用と時価額との差額を過失割合に応じて(50万円を限度に)保障する特約です。
*なお、相手の車が6ヶ月以内に修理する場合に限ります。

このようなケースでお役に立ちます！！

〔例〕道路を走行中わき見運転をしていたら前方に停車していた車に気付くのが遅れてしまい追突してしまった。
こちら側が一方的に悪く、また相手車両は古く時価額は20万円であるが、修理費用は50万円かかるということであった。(過失割合100:0の場合)



今までだと...



修理代は50万円かかるが、対物共済では法律上の損害賠償額(時価額)までしか払われないので、20万円が支払われる。しかし、相手側が納得せず不満を訴えている。
どうしよう...困ったなあ...
(最悪足りない分は自分で弁償しなきゃ納得しないかな?)

この特約があれば...



修理費の時価(20万円)を超えた分が50万円以内で、過失割合は100%なので、**30万円×100%=30万円**が支払われました。したがってトータルで20万円+30万円=50万円払われたので、**無事相手側とは円満に解決しました。**

賠償事故の解決がよりスムーズになります！！

○対物超過修理費用保障特約の支払内容

相手自動車の時価額 60万円	×	過失割合 お客様:80% 相手方:20%	=	お支払する共済金 40万円×80% 32万円
時価額を超える修理費 40万円				

対物賠償で過失割合に応じてお支払い

*ご契約の際には、「ご契約のしおり・約款」および「重要事項説明書」をお読みください。

(05019990069)

JA共済 事故サービスセンター



すぐ警察に通報しましょう。



すぐ119番に通報しましょう。



事故サービスセンター又は、
最寄りの支所にご連絡下さい。

旭川市豊岡4条1丁目274番地の2
(豊岡金融支所内)

事故サービスセンター
31-3188
フリーダイヤル
0120-258931

特集

JAあさひかわ
クッキング
フェスタ

いっそう深まった「地産 地消」の交流。

今、地元で生産されたものを地元で消費する「地産地消」の取り組みが各地で行われている。JAあさひかわでも、消費者に地元食材の良さを知ってもらい、JAを身近に感じてもらうことを目的に、8月28日に続き、9月25日、10月30日の3回に渡り、クッキングフェスタを開催した。この新たな試みでは、ほ場や出荷施設の見学、そこで採れた農産物を使用した料理教室、お食事会、意見交換会などが行われた。また、女性部の協賛のもと、準備段階から当日の料理教室のアシスタントまで、女性部の方々には多くのご協力を頂き、盛会裏に終えることができた。特集では、9月25日にときわ市民ホールで開催された第2回クッキングフェスタを取り上げ、当JAの地産地消への取り組みをお知らせしたい。



▲「おいしいね」。出来上がった料理に満足

清水先生と談笑しながらのお食事会では、地元の食材の良さを存分に引き出した料理

お食事会、意見交換会



▲清水信子先生

前回に引き続き、講師には「家族の絆は手づくりの食事」を信条に、日本の農業に熱いエールを送る清水信子先生を招き、アシスタントとして女性部役員10名が加わり料理教室が始まった。

料理教室



▲清水先生のお話しに全員集中

女性部役員による前日の下準備と清水先生の親切なアドバイスにより、参加者の皆さんは手際よく料理を完成させ



▲楽しく手際よく料理づくり

た。また、地元で採れた食材を見て、触れて、調理することで素材の良さを再認識している様子だった。

料理教室のメニュー

北野地区の新米
「ほしのゆめ」
こまつなのギョウザ
さやいんげんのじか煮
きゅうりとわかめの酢の物



▲鷹栖町農業振興公社のトマト加工場

第1回に引き続き今回も抽選で選ばれた41名の参加者が北野地区を視察。最初に鷹栖町農業振興公社のトマト加工場と野菜集荷場（きゅうりの

加工場、集荷場の視察

共撰所）で、同公社の山原常務より原料トマトの集荷からトマトジュースができるまでの過程の説明を受けた。きゅうりの共撰所では、規格ごとに箱詰めされていて、ラインの説明があり、参加者の中には、思わず新鮮なきゅうりを実際に手にする方もいた。

その後、上川ライスターミナル（株）で、粉がお米になるまでの仕組みを墓田部長が明確に説明された。当日は刈り入れの最盛期で、視察中にも頻繁にトラック、リフトが往来していた。



▲きゅうりの共撰所を見学

参加者は、荷受口にダンブから粉が流しこまれる風景を目の当たりに、近代的な施設とその大きさに驚嘆の声を上げていた。



▲上川ライスターミナル



▲トマトジュース「オオカミの桃」で喉を潤す

が再認識されたフェスタであった。今後も、地産地消に取り組むと同時に、JAあさひ



▲清水先生にサインのおねだり

かわのクリーンな農畜産物を幅広くアピールしていく必要がある。

JAあさひかわ
VOL. 23
2005/11/01

目次

特集 クッキングフェスタ 01

明日を担う	03
新米・新そば試食会	07
トピックス	09
理事会だより	14

表紙写真/
神居地区上雨紛のいちごほ場

JAあさひかわを アピール

JAあさひかわの情報を発信するパンフレットである「JAのご案内」。JAあさひかわのフィールドには、クリーンな農業と安全・安心な農畜産物がいっぱいあることを広くアピールし、販路拡大のための推進活動に役立てるために作成された。



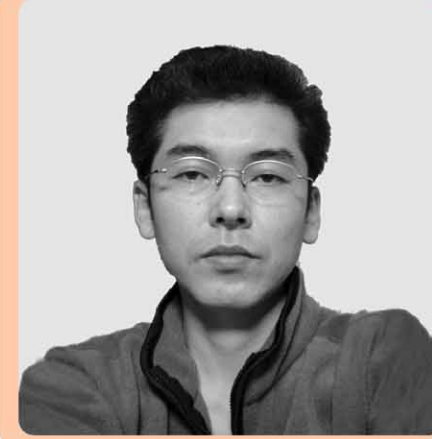


消費者の笑顔がみたい!

石尾 卓也さん

(旭正地区)

- 1 昭和46年4月9日
- 2 父、母、妻、子供
- 3 スキー、PC
- 4 平成16年4月から
- 5 水稲と野菜の複合経営
- 6 当面の目標は水稲の規模を多少拡大すること。
- 7 私たち生産者が作った農産物を消費者が食べた時に、笑顔がこぼれる、そんな農産物を作るよう日々努力していきたい。
- 8 消費者のために、私たち生産者は日々努力を惜しまないので、JAの方々も日々努力を続けて欲しい。



効率的・安定した経営環境を目指す。

里見 光浩さん

(旭川中央地区)

- 1 昭和44年11月26日
- 2 父、祖母、妹、姪
- 3 ドライブ、パソコン、ネットサーフィン
- 4 平成15年から
- 5 父の稲作全般の補助的な作業
- 6 目標の経営スタイルはまだ勉強中なので、理想の経営スタイルになってしまうが、他の産業と遜色の無い効率的・安定した経営が出来る環境を目指したい。(文章で書くと簡潔だが、北海道の様な1年1作による実務となると意外と難しいが…)
- 7 まだまだ、勉強したり情報収集している身なので抱負を言える所まで達してないが、せっかく地域ごとに特色をもって生産しているのだから、その地域特有の個性を全面的に広めていきたい。
- 8 (衣・食・住)の観点からすると、情報公開の範囲を広めて欲しい。例えば、食糧庁が蓄積している情報はネット上では一部公開されているが、ネットを見れない世代に対しても、もっと広めて欲しい。専門的な分野での情報は見かけられても、一般的部分から見るとまだまだ消費者に対して情報が公開されている様には思えないので、その部分をより明確に解りやすい形で広められればと思う。
- 9 理想は高過ぎず低過ぎず? 自分の意見をハッキリ言える方。



消費者の多様なニーズに応えることのできる作物を。

水澤 拓也さん

(神居地区)

- 1 昭和47年3月13日
- 2 父、母
- 3 旅行
- 4 平成4年から
- 5 果樹(サクランボ、リンゴ、梨)
- 6 品質のより良いものを生産できるような経営。優良品種の導入など。
- 7 現在、消費者への情報も増えていることから、消費者の多様なニーズに応えることのできる作物を作ること。
- 8 色々な情報交換が更にできればお互いにとって有益だと思うので、現状には特に不満はないが、より協力体制がとれれば良いと思う。
- 9 やさしい人



冷害、災害に効果的な対策を講じ、真剣に取り組む。

二階 雅輝さん

(神居地区)

- 1 昭和46年1月24日
- 2 父、母、妻、息子、娘
- 3 マリンスポーツ
- 4 平成6年から
- 5 果樹(サクランボ、リンゴ、梨、プラム、ブルーベリー、ブドウ)
- 6 複合経営
- 7 冷害、災害に効果的な対策を講じ、困らない経営をする。近年、台風などの災害もあることから真剣に取り組むたい。
- 8 農業情勢など厳しい状況であるが、農協と組合員、今まで以上に協力しあって、頑張っていきたい。

永山

9月12日(月)



12区2組の幅崎勝良(写真1番左)さんと14区3組の眞鍋正一(写真左から2番目)さんと13区1組の森定房江(写真右から2番目)さんと15区西の平野恵美子(写真1番右)さんが「ほしのゆめ」、「きら397」を初出荷。

全量一等米
で初出荷！
平成17年産米の初検査は、昨年とほぼ同じ日に各地区で始まった。今年は、全生産者で農薬成分12回成分以内に挑戦をし、若干の不安を抱いていたの所前検査となったが、全地区とも全量一等米であった。

旭正

9月12日(月)



旭正1の旭正ファーム(写真右)さんが「ほしのゆめ」を初出荷。

神居

9月7日(水)



雨紛地区の室崎敏夫さん(写真右から2番目)・富沢地区の石坂憲之(写真左から2番目)さんがそれぞれ「あやひめ」を初出荷。

北野

9月12日(月)



8区の村田哲雄(写真右から2番目)さんと聖和の舟根禎さん(写真1番右)が「ほしのゆめ」、「あやひめ」を初出荷。

旭川
中央

9月10日(土)



4区の只石武(写真左から2番目)さんと5区の市川彰男(写真左から3番目)さんと旭神の岩井敬樹(写真右から3番目)さんが「ほしのゆめ」を初出荷。



品質が良く、食べてうまい物を生産していきたい。

安友 久善さん
(永山地区)

- 1 昭和52年3月20日
- 2 父、母、妹、祖父、祖母
- 3 ドライブ
- 4 平成9年4月から
- 5 水稻・大豆
- 6 面積は現在のままで、自分がつくった生産物は自分で売りたいなあ。
- 7 品質が良く、食べてうまい物を生産していきたい。
- 8 JAあさひかわ独自のPB(プライベートブランド)商品を作っていてはどうか。
- 9 伊東美咲

人気3都市をじっくり観光
高雄・花蓮・台北
正至中大 5日間

旅行期間
平成17年12月9日(金)～13日(火)
旭川空港よりチャーター便で行く台湾4泊5日の旅

お一人様 **148,000円**
※お気軽にお問い合わせください

国内旅行	海外旅行
■添乗員付きの募集ツアー	■添乗員付きの募集ツアー
■グループ旅行	■グループ旅行
■全国の旅館・ホテルの手配	■海外航空券および海外ホテルなどの手配
■ANA, JAL, AIRDOなど航空券の手配	■ジャルパック、ANAハローツアーなど各種
■JRの手配	
■JALツアー、ANAスカイホリデー、JRツインクルなど各種	

旅行センター(豊岡支所内)はJAあさひかわの旅行事業部門です。
ご注文は、各基幹支所でも承っております。
お問い合わせは
31-3188 豊岡支所

「地産地消」の取り組みで手応え

新米・新そば試食会を開催 「クリーン米」と「地産地消」をアピール

9月22日（木）、当JA本所3階大ホールにおいて、17年産新米・新そばの試食会が開催された。今年初めての取り組みだが、上川支庁や旭川市、市内スーパー、旭川消費



▲新米、新そばの味にみんな満足の様子

者協会などから120名が出席した。新米については、本年より全生産者で農薬成分12回成分以内に組みを組みをしていることを強調し、「安全・安心な米を、是非、地元で食べていただきたい」との願いを込めて、「ほしのゆめ」きらら397「ななつぼし90%+あやひめ10%」の3種類について食味、粘り、つやなどを食べ比べていただいた。また、そばは江丹別産石臼挽きの新そばで、冷たいものと温かいものの2種類の試食をしていた。

米（農薬成分12回成分以内）に全生産者で取り組みをしていることに対して、多くの方から支持、応援をいただいた。また、そばについては圧倒的に美味しいと言っ意見が多かった。

10月5日（土）から丸井今井旭川店の8階催事場で、上川・留萌・宗谷道北3支庁の特産品を集めた「道北三支庁の物産展」が開催された。昨年に引き続いての企画で、今年は宗谷支庁も加わり「郵便局長さんのお薦めする物産品」として3支庁合わせて計32業者が参加した。地産地消も掲げるこの企画で当JAは、「江丹別そば」を中心に、そば茶やそばかりんとうなどの加工品も販売した。

郵便局長が選んだ「とっておき」「江丹別そば」をPR



▲人気を集めた郵便局長さんの「とっておき」

「江丹別そば」全国発送へフル稼働

江丹別蕎麦加工（株）は、9月12日（月）から新そばの全国発送を開始した。「江丹別そば」のブランドで

道内外のそば屋に名前が通っているが、新そばが出まわるこの時期は注文が殺到し、工場はフル稼働で生産している。特に人気があるのは、石臼挽きのそば粉で、品質と味の良さが高く評価されている。



▲急ピッチで進む新そばの集荷と製粉作業

順調に進む、平成17年産 クリーン米の集荷・販売

春先から稲作連絡協議会との連携により、クリーン米生産と全量集荷に向け取り組んできた成果が実を結び、10月18日現在で、加工米や安定供給契約米も含め、24万俵余りが集荷されており、育苗時のムレ苗や成熟期前のカメムシ防除などにより、全体の10%が「クリーン米」（農薬成分12回成分以内）に該当しなかったが、残り90%は「JAあさひかわクリーン米」として出荷されている。（生産履歴により確認）一方、販売については、春先から道内外において取り進めてきたクリーン米生産取り組みのPRと販売推進に力を入れてきたことより、産地指定につながるケースも増え、9月末現在では産地指定率が7割強と順調に高まっている。



第5班推進活動 9月26日

訪問先	ホクレン本所 米穀事業本部（米穀部・パールライス部）
参加者	山本組合長、田口専務、長勢常務、小杉参事、 庄司営農販売部長、板谷営農販売部審査役

山本組合長から、日頃の事業推進協力に対して、また、7月に開催した総決起集会に対する講師派遣等の開催協力に対するお礼を述べ、主要テーマである当JAのクリーン米の生産取り組み状況と上川IRTの利用計画、また、春から府県消費地に出向いてホクレンの支店や卸等にクリーン米のPRと販売拡大推進を行ってきた経過等について説明し、懇談を行った。

第6班推進活動 10月13・14日

訪問先	（株）妹尾商店、（株）こめしん、 （株）釧根食糧、JA帯広かわにし
参加者	山本組合長、長勢常務、 中井副組合長他非常勤理事9名、小杉参事、 庄司営農販売部長、板谷営農販売部審査役

訪問した先々では、当JAにおけるクリーン米の生産取り組み状況と上川IRTの利用計画について説明し、懇談を行った。

（株）妹尾商店は、釧路市内にスーパー4店を営む老舗で、5年前から他店との差別化のため、店舗の一角に25PSの精米機を導入し、自家精米をした販売を行っている。売価は、仕入れ原価に機械の償却費や人件費、正当な利益を見込んで設定されており、決して安い価格で販売しているわけではないが、導入前に比べ5倍の売れ行きで好調とのことで、JAあさひかわ産のクリーン米を使っていたらいいよう、サンプルを渡してお願いしてきた。

（株）こめしんは、業務用供給とスーパーへの納入、一般家庭向け精米の販売が半々の営業内容。一般家庭用は、消費者契約米など他では買うことができないものを扱っている。「過去に、JAが独自に売り込みにきたことは2度あったが、組合長自ら売り込みにきたのは今回が初めて」とのことで、JAあさひかわのクリーン米を使って頂けるよう、サンプルを渡してお願いしてきた。

（株）釧根食糧は、合併時から1〜2万俵程度の産地指定を受けて供給しているが、ホクレンに指定発注しても購入できないことが多いとのこと。道産米は、きらら397が2割、ほしのゆめが8割の比率で高整粒・低蛋白などの高品位米を扱っているが、品質も安定し根強く売れているとのこと。ほしのゆめクリーン米のサンプルを渡して、引き続き産地指定の継続をお願いした。

平成17年産 米の販売推進活動状況報告

平成17年産米の収穫期と前後して、道内外において米拡販推進を目的に、次の3班編成での拡販活動を実施した。

第4班推進活動 8月21〜23日

訪問先	ホクレン名古屋支店・同大阪支店、 （株）フジオフードシステム、伊丹産業（株）
参加者	山本組合長、小杉参事、庄司営農販売部長

→大阪市 （株）フジオフードシステム

まず、山本組合長から、7月に産地訪問を受けたお礼を述べ、当JAのクリーン米（農薬成分12回成分以内）への生産取り組み状況と上川IRTの利用計画について説明し、懇談を行った。

同社は、食堂のチェーン展開しており、今年度末に480店舗、2年後には1,000店舗展開を計画している。道内にも進出し、旭川市進出1号店が10月上旬に開店している。

各店で使っている米は、道産「ななつぼし」と「ヒノヒカリ」または「キヌヒカリ」の50:50のブレンド米である。

展開している「まいどおきに食堂」などは、いつも食べている「炊きたてのごはん」とみそ汁の他に卵焼きや焼き魚・煮物など、ごく普通のおかずを中心にしたお店である。新たな戦略として、店舗入り口付近で「ごはんの釜炊き」の演出を考えていることから、JAあさひかわ産「ほしのゆめ」のクリーン米を新アイテムとして使用することを提案した。（9月に入り、440トンの産地指定を受けることが決定し340俵の1回目の出庫があった）

→伊丹市 伊丹産業（株）

ここでも山本組合長から、16年産米の産地指定（700トン）のお礼を述べた。その後、当JAのクリーン米の生産取り組み状況と上川IRTの利用計画について説明し、懇談を行った。

量販店の中には、プライス感だけでの提案を求めている店があり、売価も下がり、コシヒカリでも安い地帯のものが好まれるところ。

米の仕入れ先は「全農」に位置づけているので、収穫直後などに出来るJA直売や業者ものが、安く出回ってくることに足を引っ張られる傾向がある。「年間を通じて定量・安定価格で供給してくれる産地であれば、安くなくても良いと思っているので、系統集荷率の底上げが産地を守り、卸や量販店の収益確保につながってくるので努力して欲しい」との要望が出された。

観楓会を兼ね、川湯温泉で道内研修会

北部さつき年金友の会開催

9月13日(火)から15日(木)までの2泊3日で、北部さつき年金友の会(浅田精一会長、会員数174名)の観楓会を兼ねた道内視察研修会が会員29名の参加のもと行われた。

1日目。からくり王国や石狩峠、摩周湖など観光の要所に立ち寄りながら宿泊地の川湯温泉に向かった。

2日目。温泉街にある2カ所のパークゴルフ場で終日過ごす予定が、朝から低温の上小雨もぱらつき天候回復の兆しが見えない。1ラウンド18ホールを回ったところでプレ-の継続を断念。これが旅行の目玉であっただけに残念ではあったが、ホールインワンが出るなど一打ごとに歓声が上がりに盛り上がった。昼食後は、各自部屋で麻雀や花札、トランプゲームなどに興じ、相撲記念館など温泉

街を散策した。また、何度も入湯したり、夜の宴会に備えて体を休めたり、それぞれが思い思いの時を過ごした。夜は昨日に続き大宴会。景品争奪ビンゴゲーム、会員のマジックショー、カラオケをBGMに使ったダンスに加え、持ち込みしたビールや日本酒、焼酎では足りず、ワインなど現地調達のアールコールまでも

全て飲み干してしまいう完全燃焼ぶりであった。最終日。昨日の天候が嘘のような快晴で暖かい1日となった。ホテル出発後、硫黄山で集合写真を撮り、初日に見ることができなかった美幌峠からの大パノラマを満喫し、全員が元気に帰路についた。



▲硫黄山の煙をバックに記念撮影。

好プレー・好スコアが続出

神楽年金同友会第2回パークゴルフ大会開催



▲めっきりウデが上がりました。

9月13日(火)、早朝からの小雨も上がったが、コンディションがあまりよくない中、33名の参加のもと神楽パークゴルフ場で大会の熱戦が繰り広げられた。近年のパークゴルフ場で、日頃このゴルフ場で顔を合わせ

る仲間も多く、和気あいあいの中プレーが行われた。参加者は、みんな第1回大会よりずいぶんウデを上げ、好プレー・好スコアが続出し、大いに盛り上がった大会となった。優勝者は、男性の部が山本幸一さん、女性の部は大景子エ子さんであった。

平成17年産そばの収穫始まる

神居、江丹別地区で本格化

8月下旬から9月上旬にかけて、そばの収穫作業が神居地区と江丹別地区の両地区で本格的に始まった。

今年は、昨年比べて播種後の天候が良く、無事に実りの秋を迎えることになり、収穫作業にも力が入った。

昨年は、大型台風18号による倒伏・落実の被害が甚大で

作付農家を落胆させたが、今年は順調に成育が進み、また刈り取り作業の当初に上陸が危惧された台風も大きな被害をもたらすことなく通過し、9月の間、好天が続いたこともあり収穫作業もスムーズに進行した。

昨年は、大きな台風の被害があったことから、農家の人たちが「今年こそは…」と願いを込めての収穫作業だった。



▲快調に進んだそばの収穫作業。

稲わらの収集始まる

雨紛、神居古潭地区で稲わら収集機導入



▲ロールにまとめて家畜の飼料に。

10月に入り、稲の刈り取りが終わった雨紛地区・神居古潭地区においてCTE事業によって導入された稲わら収集機が稼動を始めた。

今年は、昨年に続いて雨の量が少なかったため、順調に収集作業が進んだ。刈り取りの終わった幾つかのほ場には、ロール型になった稲わらが秋らしい風物詩を演出していた。

稲わら収集は、水田ほ場の乾燥を促進し、余分な窒素分をほ場に残さないなどのメリットがあると言われている。また、低蛋白の良品質米生産に繋がる可能性も大きいことから、神居地区の各生産組合が中心となり、積極的な取り組みが行われている。

大豆刈り取り作業始まる

天候よく作業も順調

9月26日（月）から旭正地区で大豆の刈り取り作業が始まった。

昨年より3日早い作業開始で、（有）コントラクター旭川が中心となって2台の汎用コンバインが快調な機械音を響かせて刈り取っていた。昨年は、台風などの影響もあり収量が減少する寂しい秋

となったが、今年は天候もよく、作業も順調に進んでいる。刈り取り作業は、例年10月末まで続けられる。

旭正地区の大豆の作付面積は137ha（内黒大豆21ha）で、昨年より30haほど面積が広がっている。大豆は、畑作作目の柱の一つとして位置づけられており、当JAとし



▲今年も大豆は豊かに実った。



▲しっかり根づいたフラワーロード

フラワーロードで地域を明るく

魅力ある農村景観づくり

女性ネットワークの地域活動の一つとして、4グループ27人から始まったフラワーロードづくりも、今年は8年目を迎える。8グループ80人とその輪が大きく広がった。

フラワーロード推進委員会長の岩崎和子さんは、「暗くなりがちな今の農

業情勢ですが、せめて環境だけでも明るく、気持ちよく暮らしたい。また幼い子どもたちが通学途中に花を目にし、心豊かな人に成長してほしい」との思いを町内に伝えて事業への理解をお願いした。幸い、町内全戸に賛同を得ることができ、立派なフラワーロードが実現した。

秋播き小麦の播種作業終わる

9月6日、北野地区の生産組織中心に

9月6日（火）、北野地区の生産組織が中心となり、グレンドリル2台で約13haに秋播き小麦の播種作業（品種ホクシン）を行った。播種作業は好天に恵まれ1日で終了することができた。

平成17年産秋播き小麦は、全量等級に入ったことから（1等21トン、2等42トン）、作

付した生産者の生産意欲は非常に高いものがあった。現在のところ、播種後の降雨などにより発芽不足などが若干見られたが、播種日が早かったことから播き直しが可能で、播き直しをしたほ場もあった。

これからの作業は、根雪前の雪腐れ病の防除が残るだけで、今年度の秋播き小麦の作

業はほぼ終了した。来春には、緑豊かな秋播き小麦のほ場に育ってくださることを願っている。



▲来年の豊作を願っての播種作業。

小学生の稲刈り体験教室を開催

北野支所青年部、授業に協力

9月8日（木）、北

野支所青年部（部長神田智靖）は、鷹栖町北野小学校5、6年生を対象に稲刈り体験教室を開催した。5月の中旬、小学校横のほ場約2aに小学生が作った「ほしのゆめ」の苗と青年部が作った苗を田

植えた。

小学生は親と一緒に家で牛乳パックの中などで苗を作り、稲の一生を観察するという授業の一環であった。その中で、子供たちに農業に興味を抱いてもらおうということで、昨年から青年部が協力することになり、今秋の刈り取りとなった。子どもたちの育てた苗

は、それぞれ違った苗であったが、見事に黄金の穂をつけていた。稲刈りは、ケガをすることなく無事終了した。その後、子どもたちから色々な質問が飛び出した。青年部員も応答に困るほどの迫力のある場面もあったが、有意義な1日となった。



▲自分で育てた苗の実りに歓声。

第9回理事会

平成17年8月29日(月)

協議事項

- 1 平成17年度7月末に於ける事業実績（子会社含む）および仮決算（子会社含む）の状況について
- 2 大口貸付について
- 3 新規就農者農地取得資金及び大型農業営農支援資金について
- 4 平成17年度産米出荷取扱について
- 5 神居給油所地下タンク入替工事について
- 6 規程類の一部改正について

報告事項

- 1 地区内営農状況について
- 2 上川ライスターミナルの利用計画について
- 3 組合員の加入及び脱退の状況について
- 4 系統連合会の出資配当および事業割戻状況について
- 5 職員の異動について
- 6 第4回JAあさひかわ農業まつり結果報告について
- 7 有価証券の取得について
- 8 系統外預金与信状況について

謹んで故人のご冥福を
お祈り申し上げます。

8/9	森田 伊兵衛さん	北野地区2区 元監事
8/14	山田 武夫さん	永山地区13区2組
8/16	柳瀬 庄一さん	旭正地区共栄2
8/23	木下 広嗣さん	永山地区11区
8/28	松田 フサさん	中央地区神楽
8/29	吉田 孝一さん	神居地区雨紛1
8/29	藤沢 功さん	中央地区その他
9/19	伊井 みよさん	神居地区西丘
9/21	曾根 一弘さん	北野地区聖和
9/30	湯本 陽二さん	北野地区3区
9/30	三上 アケノさん	神居地区豊里4

(ともに正組合員)

JA ASAHIKAWA
あさひかわ

概要

(平成17年9月末実績)

組合員数	正組合員	2,751名
	准組合員	24,350名
	合計	27,101名
出資金残高		1,909百万円
販売取扱高		2,994百万円
生産資材供給高		1,408百万円
給油所供給高		1,151百万円
生活供給高		327百万円
貯金残高		92,918百万円
融資残高		21,384百万円
長期共済保有高		2,368億円

第10回理事会

平成17年9月29日(木)

協議事項

- 1 平成17年度8月末に於ける事業実績（子会社含む）および仮決算（子会社含む）の状況について
- 2 監事による監査の結果（子会社含む）及び回答について
- 3 大口貸付について
- 4 平成18年度新卒採用計画について
- 5 寒冷地手当の支給について

報告事項

- 1 地区内営農状況について
- 2 神居給油所地下タンク入替工事入札結果について
- 3 個人情報の漏えい等の発生について
- 4 有価証券の取得について
- 5 系統外預金与信状況について

●営業時間変更のお知らせ

11月1日より3月末まで、本所営農販売部・購買部、営農センターの営業時間が変更となります。

	平 日	土・日・祭 日
本所営農販売部・購買部	9:00~17:00	休 業
各 営 農 セ ン タ ー	9:00~17:00	休 業
江 丹 別 そ ば の 里	11:00~17:00(木曜定休日)	

●神居給油所改装オープンのお知らせ

10月24日(月)から11月4日(金)まで、地下タンク入れ替え工事のため、休業させて頂き大変ご迷惑をお掛けいたしました。無事オープンする運びとなりました。今後ともご利用の程、よろしくお願い申し上げます。



11月7日(月) 改装オープン!

営 業 時 間	平日・土曜日	日・祭 日
	7:30~20:00	8:00~19:00

神居給油所/旭川市神居3条8丁目1番8号 TEL0166-61-2531

●お知らせ

イージーオーダー 特別お誂え会の開催

組合員の皆様には日頃よりご利用頂きありがとうございます。さて、この度イージーオーダー特別お誂え会を下記の通り開催しますので、この機会にご利用頂きたくお願いします。なお、開催時間はいずれも初日は正午より午後6時まで、2日目は午前9時より午後6時までとさせていただきます。

開催日	開催場所
11月10日(木)~11日(金)	北野支所 2階会議室
11月14日(月)~15日(火)	本所 3階小会議室
11月17日(木)~18日(金)	神居営農センター 2階会議室
11月21日(月)~22日(火)	永山営農センター 2階会議室

永山
トビックス

「ほしのゆめ」のおにぎり配る
上川支庁が庁舎内で新米キャンペーン

10月14日(金)、豊作で販売環境の厳しさが予想される中、上川産米の一層の消費拡大と北海道米の食率向上を目的に、支庁の近隣住民、上川合同庁舎の職員等を対象に上川産新米キャンペーンが実施された。これは、庁舎1階道民ホールで開かれたバイオリン奏者池田敏美さんのコンサートに合わせて企画されたもの。当日は、「ほしのゆめ」の新米を試食してもらい、大変美味しいとの感想を頂いた。

永山支所女性部(部長板橋和子、参加者16名)は、10月2日(日)、河の交流館「さらら」で開かれた「秋の新川まつり」に参加した。今年で第2回目を迎えた「秋の新川まつり」は、地域住民の関心も高く大勢の来場者で大変な賑わいをみせた。永山女性部は、会場に出店を出し、地元の新米野菜を販売するとともに、新米の「ながやま米」を使ったおにぎ



▲ズラリと並んだ地元産の新鮮野菜

中里さん夫婦が優勝、準優勝さうらう
パークゴルフ部会第1回大会を開催

10月6日(木)、永山年金友の会パークゴルフ部会(河川広志会長、会員数27名)の第1回大会が開催された。今回の大会には15名の会員が参加し、鷹栖町の丸山調整池パークゴルフ場でウデを競った。

屯田の里の漬物や味噌なども並べた皆さんの手で賑わった。永山の手作り品が新鮮で安全・安心なことを大いにアピールするいい機会となった。

3回目を迎える来年は、「も」と永山の野菜や加工品を多くのの人に知ってもらおう」と部員の間から早くも来年に向けた抱負が聞かれた。



▲あつという周になくなった新米おにぎり



▲優勝カップを手にした中里哲夫さん

第1回目の栄えある優勝は中里哲夫さん、準優勝は中里フサ子さんのご夫婦。夫婦揃っての入賞で、全員の賞讃を浴びていた。

当日は天候にも恵まれ、みんな年を忘れたハッスルプレーで大いに盛り上がった。